

パブリック・サービス研究分科会 8月夏期研究合宿 「主題書誌作成と蔵書評価」研究グループ報告書	
日時	2009年8月24日(月)～26日(水)
場所	山梨県石和温泉旅館「糸柳」
記録	瀬戸山(学習院大学)
参加者	伊東(女子美術大学) 椎名(明治学院大学) 清水(和光大学) 瀬戸山(学習院大学)

1. 進捗報告

現在までの進捗状況を報告し、加藤先生や他グループのメンバーからアドバイスをいただき、グループ内で再度相談し、研究タイトルを「主題書誌作成と蔵書評価」から「蔵書評価」とすることとした。主題書誌作成作業は蔵書評価作業のための一作業と見ることができ、ため、「主題書誌と蔵書評価」というように2つを並列扱いとするよりも、「蔵書評価」の名のもとにまとめた方が、まとめやすいとの意見で一致した。

その他の意見に対しては、検討の結果以下のとおり確認された。

- ・当初の研究テーマであったステークホルダーへの働きかけを内容に含めるか
→含めないこととした。確かにステークホルダーへの働きかけが出发点であったが、議論を重ねていくうちに、今のテーマに発展した。その経緯を含めるとまとめがたくなる。
- ・主題書誌の対象分野を経営学の組織論とした理由が明確ではない
→他の学問分野と比較して歴史が浅いため、資料の数が少なく取り組みやすい。多くの大学で設置されている一般的な学部のため、蔵書評価の際、広範囲にデータを拾うことができる。図書館学以外の分野についての主題知識を得たかった。などが理由である。
- ・和書に限定するかどうか。
→和書に限定しない。データの取り直し、修正が必要となるため。
- ・経営学には古典と新古典の区別がある。作成した主題書誌がどちらかに偏るものかどうかを調査した上で、各大学の所蔵率を調査する必要があるのではないかと。
→古典と新古典の区別を事典類に当てて調査したが、そのような記述は見られなかった。そのため、この区別には触れないこととした。
- ・著者リストの構築をしてはどうか。著者リストは、主題書誌中に現れる回数が多い順に著者を並べるもので、その分野における著者の影響力の強さを示す一つの指標となる。
→リスト中の著者名は統一した形で採っておらず、再集計する時間がかかる。1000件近いデータを再修正する時間的余裕は無いので、分析に移ることとした。

2. 蔵書評価表の作成

作成済みの各大学の所蔵率を示す表へ、「日本の図書館 2008」をもとに、経営学部・学科の有無、資料費、図書費、蔵書冊数、所蔵雑誌種数、受入雑誌種数、学生数等を項目に含め、調査し記入した上で、所蔵率との相関を分析することとした。各項目への記入は、伊東、椎名、瀬戸山が行い、集計は清水が行うこととなった。

3. 今後の予定

- 10月定例会 データ分析、論文下書き提出
- ～11/4 論文要旨提出（報告大会用レジメ）
- 11月定例会 発表リハーサル(1グループ 12分)
- ～12/2 報告大会用パワーポイントファイル提出
- 12月定例会 最終リハーサル
- 12/15 報告大会

以上